

各位

紛争鉱物使用製品サプライチェーン対応セミナー ～米国 SEC 最終開示規則への日本企業の対応～

共催

一般社団法人 電子情報技術産業協会

一般社団法人 日本貿易会

日本機械輸出組合（セミナー事務局）

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、米国証券取引委員会（SEC）は「紛争鉱物」（コンゴ民主共和国及びその近隣諸国で産出されたタングステン、タンタル、スズ、金）に係る開示の最終規則を採択し、2013年1月～12月期より同制度が適用（報告期日は2014年5月31日）されることになりました。

これにより、SEC報告企業による紛争鉱物のサプライチェーン・デューディリジェンス調査にサプライチェーン上の関連する世界各国の企業は、その製品に使用する紛争鉱物の原産国調査への情報提供等の協力が求められるため、我が国企業としてもSEC最終開示規則を正確に理解するとともに事前に十分な体制整備が求められています。

つきましては、紛争鉱物に係る米国SEC最終開示規則の解説と米国企業の対応、日本企業のサプライチェーン対応のあり方をテーマとして、電子情報技術産業協会、日本貿易会および日本機械輸出組合は、下記の要領によりセミナーを共催することと致しましたので、各位奮ってご参加いただきたくご案内申し上げます。

敬具

記

◆日時 平成24年10月 5日（金）13：30～17：00（開場13：00）

◆場所 機械振興会館 地下2階「機械振興会館ホール」（定員250名）
東京都港区芝公園3-5-8、TEL：03-3434-8216
会場地図 <http://www.jspmi.or.jp/kaigishitsu/access.html>

◆講演内容

第一部として、米国サイドでSEC関連の規則と対応業務に精通している米国KPMG LLPのリスクコンサルタントを講師に迎えて、SEC最終開示規則の全容・論点・解釈、米国産業界の同規則への対応動向、海外サプライヤー等への要請等について解説をいただきます。

第二部として、SEC報告企業並びにSEC報告企業の調査要請に基づいてサプライチェーンの上流に遡って紛争鉱物の使用に関する情報の提供を行わなければならないメーカーや商社等のサプライヤーが受ける調査要請への対応、サプライチェーン・マネジメントの変更等における的確かつ円滑に対応する具体的な方策について、日本企業にコンサルティングを行っている

株式会社 KPMG BPA 及び株式会社 KPMG FAS の専門家よりご教示いただきます。

また、第三部として、電子情報技術産業協会の「責任ある鉱物調達検討会」での対応状況等について、本検討会 主査の牛島 慶一 氏よりお話を伺います。

【プログラム】

時間	講演内容	講師
13:30～13:35	挨拶	—
13:35～15:05 (90分)	【第一部】 「紛争鉱物規制：米国 SEC 最終開示規則の概要、主要論点、及び米国の動向」について (※英日逐次通訳あり)	米国 KPMG LLP パートナー Samuel Fogleman 氏
15:05～15:20	質疑応答	—
15:20～15:30	休憩	—
15:30～16:20 (50分)	【第二部】 最終規則に対して、日本企業が求められる具体的な対応策について	株式会社 KPMG BPA パートナー 井口 耕一 氏 株式会社 KPMG FAS ディレクター 伊藤 益光 氏
16:20～16:30	質疑応答	—
16:30～16:50 (20分)	【第三部】 電子情報技術産業協会 (JEITA) における対応状況等について	JEITA 責任ある鉱物調達検討会 主査 牛島 慶一 氏
16:50～17:00	質疑応答	—

- ◆参加費 無料（電子情報技術産業協会、日本貿易会、日本機械輸出組合の会員企業限定）
※受講券の発行はございません。
※セミナー当日は、受付にお名刺をお渡しくださるようお願いいたします。

◆お申込み方法

参加ご希望の方は、当組合ホームページからアクセスしてお申込みください。

<http://www.jmcti.org/jmchomepage/semminar/index.htm>

◆お申込み締切日 10月3日（水）

※定員となり次第、締切りを繰り上げる場合がございますので予めご承知おきください。

◆キャンセル方法

10月3日（水）までに下記事務局までご連絡ください。

◆お問い合わせ先

日本機械輸出組合 通商・投資グループ くらもと 庫元、長岡

Tel 03-3431-9348、Fax 03-3436-6455、<mailto:tohshi@jmcti.or.jp>

【講師紹介】

●Samuel Fogleman (米国 KPMG LLP パートナー)

KPMG デトロイト事務所におけるリスクコンサルタント・パートナーで、監査やアドバイザーにおいて 26 年以上の経験を有する。自動車業界、グローバル展開をしている製造業、テクノロジー業界、鉱山業界の専門家である。SEC 関連の対応業務にも精通している。カリフォルニア州立大学チコ校卒、米国公認会計士 (カリフォルニア州、アリゾナ州)。

●井口 耕一 (株式会社 KPMG BPA パートナー)

KPMG Japan におけるオペレーショナル・リストラクチャリングとストラテジック・コマニシャル・インテリジェンスチームの責任者。KPMG Japan の紛争鉱物規制にかかる CoE (センター・オブ・エクセレンス) のメンバー。業績不振企業に対する事業 (再生) 計画立案、業務改善、M&A に関わるビジネス・デューデリジェンス、価値向上施策立案、PMI に係るアドバイザー業務に従事。KPMG 参画以前は、プライベートエクイティ会社にて投資実行とハンズオン経営を統括、それ以前は戦略コンサルティング会社にてサプライチェーン・マネジメント改革に従事。雑誌への寄稿、講演多数。早稲田大学卒、同大学院修士。

●伊藤 益光 (株式会社 KPMG FAS ディレクター)

KPMG Japan におけるリスクコンサルティングとフォレンジックのリーダーの一人。KPMG Japan の紛争鉱物規制にかかる CoE (センター・オブ・エクセレンス) のメンバー。日米にて 16 年以上のリスクコンサルティング業務の経験を有し、IT セキュリティやサイバーセキュリティの専門家でもある。また、会計監査、IT 監査、M&A、財務及び IT デューデリジェンスにも従事。明治学院大学卒、公認会計士、CISA (公認情報システム監査人)。

以上